

# 信頼

される企業になるために



社会から信頼される企業となるために、求められるものとは何なのでしょう？ 外部有識者をお招きしてのダイアログで、企業が果たすべき社会的責任について、そして今後のTDKに期待することについて、ご意見を伺いました。



「信頼される企業になるために」という、まさにCSRの原点ともいえるテーマで実施されたダイアログ。CSRとはそもそも何なのか、社会からの信頼を得るためにはどのような姿勢が必要なのかについて、3人の有識者の方々から、それぞれの立場や経験に根ざした多彩な意見をお聞きすることができました。

SRI（社会的責任投資）のための企業の調査・評価を行う株式会社インテグレックス代表の秋山をね氏からは、企業に求められている価値観の変化、そして事業活動におけるCSRの役割についてご説明いただきました。一方、経済産業省職員で、欧州政府・企業との交渉に豊富な経

験を持つ藤井敏彦氏は、CSRを理念や義務ではなく現実的なリスク管理、そして戦略として捉えることの重要性を指摘。さらに、かつてダイエー取締役秘書室長を務めた小樽雅章氏からは、企業が存続していくためには何が必要なのか、経験に基づいたお話をいただきました。

これらのご意見を受けて、出席者からは「CSRはすでに、お客様との取引における条件の一つだと感じる」「CSRも、それぞれの企業の風土に根ざしたものであっていいと思う」「高い品質の製品を提供することが、TDKのCSRの切り口になる」などの声が寄せられました。

**TDK参加者**  
 取締役専務執行役員 江南清司  
 執行役員 人事教育部長 米山淳二  
 経営監査部 部長 四居 治  
 電子部品営業 Grp. 戦略営業統括部企画部 統括課長 古海隆博  
 電子部品営業 Grp. 戦略営業統括部企画部 主事補 下西哲史  
 品質保証部 部長 犬飼康二  
 品質保証部 品質企画 Grp. 品質企画課 主査 望月善孝

資材・ロジスティクス統括部 企画グループ 主査 渡辺公雄  
 人事教育部 人事グループ 部長 綾部昭彦  
 法務部 法務グループⅢ リーダー 藤崎健一郎  
 法務部 法務グループⅡ サブリーダー 井上博史  
 安全環境室 室長 塩川年伸  
 安全環境室 温暖化対策課 主事 小林 寛  
 広報部 部長 瀧美辰彦  
 広報部 CSR推進部会事務局 主査 河本和幸

## 参加有識者からのご意見



株式会社インテグレックス  
代表取締役社長  
**秋山をね氏**

昨年来、企業活動において、短期的な利益から長期的な価値の追求へという世界的な価値観の変化が起こっています。大事なものは利益の大小だけではなくそこに至るプロセス。そして、そのプロセスそのものがCSRなのです。

その中では、従業員全員が会社の理念や目指すものを理解し、自分たちらしいCSRとは何かを考えることが何より重要です。その価値観を共有することで、部門間に横串を刺し、「現場最適」ではなく「全社最適」そして「社会最適」を実現する、それがCSR活動の役割なのだと思います。



向社会的研究所 主任研究員  
社会学博士  
**小樽雅章氏**

よく、CSRとは、「期待 (Rely)、満足 (Satisfy)、その継続 (Consistency)」だというお話をします。この三要素がなければ信頼は生まれず、社会からの信頼がなければ企業は存続できません。TDKのようなBtoB企業はどうしても直接の取引先に目が行きがちですが、その先には消費者がいることを常に意識しておく必要があるでしょう。

また会社の発展には、社員が自由に意見を言い、能力を発揮できる環境が必要。そうした社内の空気をつくるのが最大のCSRだというのが私の体験からの実感です。



経済産業省 通商機構部 参事官  
経済産業研究所 コンサルティングフェロー  
**藤井敏彦氏**

CSRの概念は、社会からの要求という、企業に対する「押しつけ」から始まりました。しかし、それに応えるための技術・経営革新が、結果的に市場開拓や競争力向上につながったケースが世界的にみられます。CSRへの取り組みが企業にとっての強力な武器になっているのです。つまり、CSRとは単なる心構えではなく、今後注目される社会的課題を戦略的に予期して先手を打つ活動と捉えるべきで、経営上の重要な課題そのものなのです。その意味で、プロフェッショナルな領域であり、専門の部署が必要なのだと思います。

## ご意見を受けて



TDK 株式会社  
取締役専務執行役員  
**江南清司**

企業の存続とCSRとの関係性について改めて考えさせられました。「迷ったときは、短期的利益ではなく“何が美しいか”で判断せよ」。歴代のトップから受け継いだ言葉を胸に、お客様の要請に応えるだけでなく、「社会の期待を先取りすること」、「社内の融和をより一層図っていくこと」などを課題として、今後の活動を展開していきます。



TDK 株式会社  
執行役員 人事教育部長  
**米山淳二**

これまでTDKとして、CSRの活動には地道に取り組んできたと自負していますが、それを従業員に伝えられていなかったと気づかされました。私たちの活動が何を指すのか、それをもっと社内に浸透させていくことで、より会社の事業全体にも貢献できる活動にしていけるのではないかと思います。